

日本人のルーツと邪馬台国

日本人のルーツ：

古代文明は、エジプト（ナイル川）、メソポタミア（チグリス・ユーフラテス川）、インダス・ガンジス川流域および黄河文明とされているが、これらは、巨大な川の流域に発生したもので、それならたとえば揚子江、ミシシッピ川、アマゾン川など、巨大な川の流域に発生していてもおかしくないし、もう少し小さな川、たとえばアムール川、メコン川、ラ・プラタ川、オリノコ川、ザンビア川、ボルガ川、ライン川などなど、やはり巨大な川の畔で発生したかもしれない。単に、その痕跡がみつかっていないだけかもしれない。……このうち黄河文明が、そのまま発展し、ずっと残っていたなら、周囲に伝播していたかもしれない。あるいは、日本にもやってきていたかもしれない。……これらは、壮大な夢物語であるが、中国は、三皇五帝の時代から、夏、殷、周と続き、さらに後世、戦国時代と呼ばれ、三国志の時代があり、秦が統一し、漢の劉邦が再び統一し、さらには異民族の支配が長く続いた。日本は、三国志のうち魏書にその存在が記録された。つまり、魏書・東夷（伝）〔倭人の項〕（いわゆる魏志倭人伝）に、魏の王に邪馬台国が朝貢し、その存在位置や卑弥呼の話があり、その返礼の使いがやってきて、およそ 300 文字くらいの、歴史書というより、ついでに書いとかか、といった感じの、まあ、その程度の扱いであって、その後も交流が続いたような雰囲気ではない。ただし、もっと後世に漢字が到来し、雄略天皇らが朝貢したとか、遣隋使の小野妹子がはるばる訪ねたというような話が存在する程度である。……日本書紀をGHQの指示により読めなかったため、唯一、外国の文献ながら、「魏志倭人伝」に頼らざるを得なかった。

そのためか、邪馬台国はどこに存在したか、とつねに論争がなされ、大きくわければ北九州説と大和説に分類される。**邪馬台国はどこに存在したか**、ということは、この書が日本に到来してから戦前、戦後を通じてつねに古代史の一大問題のように繰り返されてきた。……だから、いまでも新しい遺跡が見つかる、たとえば吉野ケ里遺跡、箸墓古墳、纏向遺跡が邪馬台国だ、などと大騒ぎすることになる。

この「邪馬台国論争」はひとまず置いて、まず日本人のルーツをさぐってみよう。著者は、長浜浩明氏である。

従来、日本人は、大陸から半島を通して渡来人がやってきて（当然ながら、後世の元寇のように攻め入ってくる）原日本人とでもいうべき縄文時代（約1万年つづいた平和な時代）人に襲いかかる。そして一部は琉球に、一部はアイヌ民族になって北海道の方に逃げる。これが鉄器や稲作を伝えた弥生人で・・・

江上波夫に至っては、騎馬民族征服説を唱えたが、モンゴルが心中にあったのだろうが、まったくその証拠がない。司馬遼太郎さんでさえ、「日本よりも古い時代から堂々たる文明と独立国を営んだ歴史を持つ朝鮮人にとって、漢文用語でいう東海の東夷（日本）がにわかに偉そうぶって、〈おまえたちと俺たちとは、先祖は同じだよ〉どうだ、うれしいだろう、という態度で言ったところで。誰が喜ぶか」と主張されている。実は、韓国はB.C.1万年から5000年にいたるまで、歴史の空白があって、無人で、文明云々を語るができないのである。（「三国志」の韓の項）

こういう司馬史観に立ちはだかったのが長浜浩明氏である。また、高山正之氏も司馬史観には否定的である。

長浜浩明氏は、文化人類学を学んだことが、古代史研究に役立っている、という。担当教授が川喜多二郎氏で、大学紛争の時、南九州えびの高原へ移動大学を実施した。川喜多先生の言葉で、

「ある民族や事象を把握するには、定説や既成概念にとらわれてはいけない。立派な肩書きの人の意見も根拠を確かめよ。多数も意味をなさない。持論にとらわれてもいけない。多方面から可能な限りデータを集め、分析し、玉石を見分け、虚心坦懐にデータをして語らしめよ。」

もうひとり。江藤淳教授は、戦後誰もが貝のように口を閉ざしていた「検閲」の実態を、米国公文書館の膨大な文献から暴いた偉大な学者。「失われた言語空間」を著した。「私は、「戦前は言論の自由はなかったが、戦後、自由になった」と教えられてきた。江藤先生は、「戦後の日本には言論の自由は一切なく、全てが検閲を受け、今日の言語空間が形成された。現行憲法も占領期に米国からあたえられたものだ」とおっしゃ

る。しかも「検閲は違憲行為ゆえにタブー視され、反米親中ソの社会党、共産党から朝日新聞、NHKなど、誰もが口を閉ざしてきた。だから、一般国民はこの事実を知らない。」そして膨大な文献から、戦後日本を統治した文献をみつけ、調べ上げ、検閲の事実を証明して見せた。

この「検閲」による歴史観がすべてになってしまった。マッカーサーとGHQは、古代史すべてを禁書にし、記紀（古事記と日本書紀）を読んではいけないとし、つまりは天皇制の原点を詳細にすることを禁じた。そのため、日本古代史についての文献は、魏志倭人伝（実際には、魏書・東夷（伝）〔倭人の項〕）だけになってしまった。このわずか300字余りの部分のみが日本についての記載である。米国は歴史が短く、日本が羨ましくて仕方がなかったのだが、記紀を禁書にすることで歴史を抹殺しようとした。

だから卑弥呼が住む邪馬台国が日本の最初の王であることになる。あるいは、そういう風に捉えられるように、捏造とまではいわないが、話を持っていく。そのため、天皇の居られた奈良県（大和）に邪馬台国が存在するように、魏志倭人伝に書いてある文章を曲解するように仕向けた。

ここで、牽強付会と誹られながらも、邪馬台国が大和（奈良県）に進出し、天皇になったとでも言いたいらしい。箸墓古墳や纏向（マキムク）遺跡が出土するたびに、卑弥呼や邪馬台国に比定しようとする。日本書紀には、例えば纏向遺跡の説明が書いてある。……これを読まなければ、日本古代史についての意見を述べるべきではない。どこかの大学の偉いさんが、あれこれ言うが、川喜多二郎氏の語るように、「立派な肩書きの人」になりたがる。これが邪馬台国・畿内説である。

魏志倭人伝と日本史とは、まったく異なる観点から書かれたもので、比較する意味はない。卑弥呼は、日本を統一したわけでもないし、単なる一地方の豪族に過ぎない。たまたま、魏の時代に朝貢して、その返礼の人がやって来ただけのことである。それをもって日本を統一したかのように、わざと錯覚させているのが現代の古代史研究者たちである。なぜ朝貢したかは、後述する。

まず、偏向のNHKとこれを欺く篠田謙一国立科学博物館副館長について書く。2018年末、サイエンスZEROで放映した「日本人成立の謎。弥生人のDNA分析から意外な事実が判明」。主役は、鳥取県東部の青谷上寺地（アオヤカミジチ）遺跡の弥生人で、これを使って「日本人の祖先は大陸からやって来た渡来人だ」と誤認させる様々な嘘が述べられていた。主導者は上記の2名である。……長浜氏がこれに異をたてる。

① この番組でいう弥生時代というのは、従来の時代区分とは異なり、紀元前10世紀から3世紀までの約1200年を指し、縄文土器を使っていた人々も弥生人に分類されている。

② 元々、日本列島には縄文人が暮らしていましたが、縄文人は北方からやってきた。弥生時代になると、九州北部に大陸から渡来人がやってきました。この時代に、日本列島にいた人々のことを弥生人といいます。

九州北部に上陸した渡来系の人々が東にひろがっていく過程で縄文系の人と混血し、現代日本人が成立したと考えられてきました、……と教科書風を書くところなる。

③ そのプロセスを科学的に解明するために青谷で発掘された37体の骨でDNAを分析しました。このDNAは、mtDNA（ミトコンドリアDNA）。ミトコンドリアは、細胞のエネルギー代謝や呼吸に関与する微小器官で、DNAの塩基対の数も1万6000くらいである。……これが一躍有名になったのは、拉致被害者の横田めぐみさんの娘といわれるキム・ヘギョンさんと、横田早紀江さんのmtDNAが一致したことで、めぐみさんの娘であり、親であることがわかった。つまり早紀江さんの孫であることがわかった時である。

すなわち、mtDNAは、母から娘へと受け継がれる遺伝子。母系の祖先を、ルーツを辿ることができます。上記、37体のうち縄文系は1体のみで、他は大陸にルーツを持つ渡来系でした。このことから、大陸から半島を経由せずに直接青谷に渡来してきた人たちがいたことが浮かびあがってきた。

④ 渡来人は、北部九州だけではなく、想定より広い範囲でやってきた、と考えざるを得ない。……なるほど。ところで、篠田氏は、

女性のみが渡来してきたとでもいいたいのだろうか。「私たち」とい
いながら、男性はどうなるの？

国立博物館の顔のような人が、なぜこのような小さい遺伝子の集ま
りで大きな問題を解決しようとしたのだろうか。・・・ペテン師のよう
なことをする。

- ⑤ 男性であることを決定するのは、Y染色体が存在することである。
Y染色体はもっとも小さい染色体のグループに属する。およそ 6000
万もの塩基対をもっている。これは、21世紀になってから解明でき
たのであるが、最新の科学の発展による成果をなぜ、駆使して議論し
なかったのだろうか。

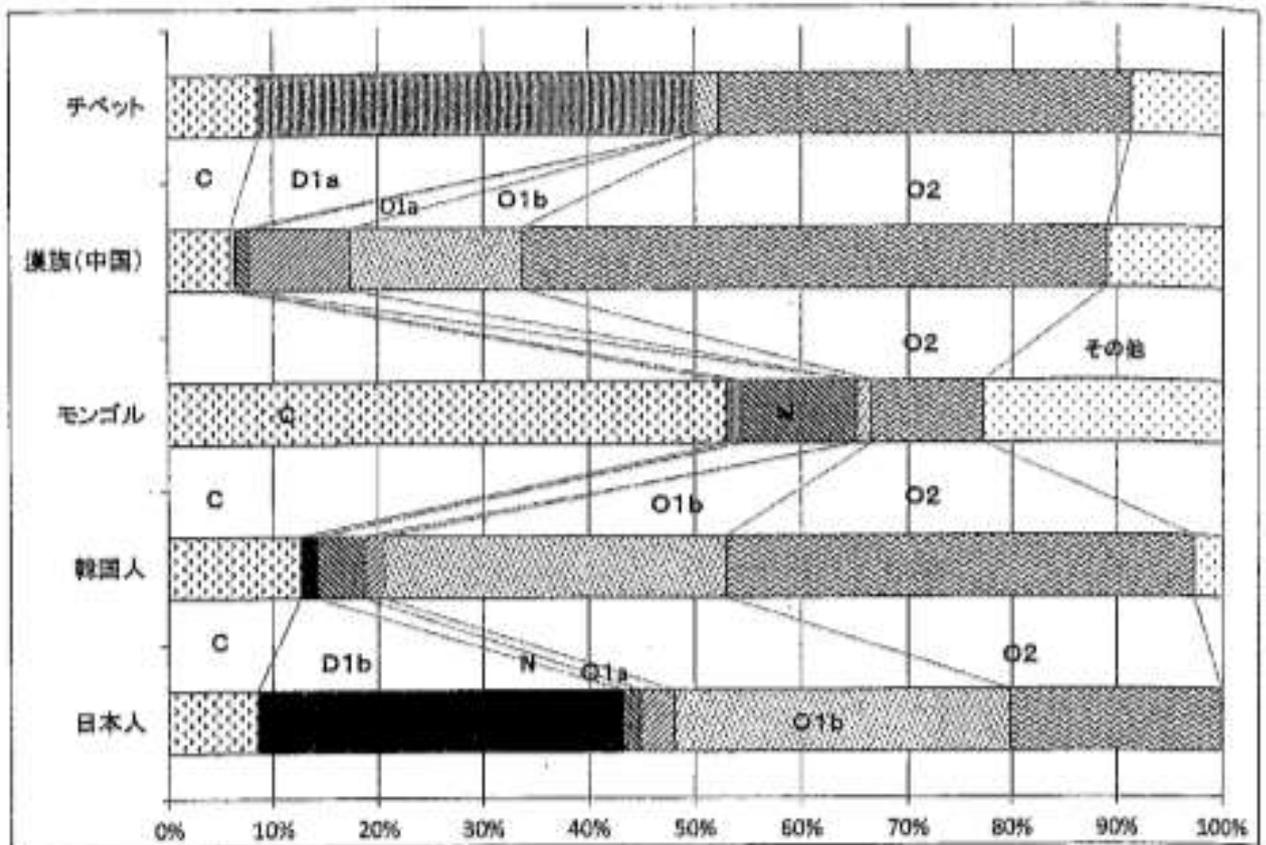
- ⑥ Y染色体を使わなかった理由がわからないのだが、下の図からあき
らかなように、**日本人にのみ特有のDNAが存在する**ことを知られた
くなかった？日本人は、大陸や半島からきたのではない。・・・これ
では、自説の「日本人は大陸から渡来してきた」ことが嘘であること
がバレることを嫌がったのだろうか？

ではなぜ日本人が大陸から渡来してきたことに固執するのだろうか。
そこまで大陸に付度する必要があるのだろうか。学者として、**恥ずか
しいことだ。**

- ⑦ 核DNA分析をおこなっても、結果は下図とほとんどかわらない。
名古屋大学の**山本敏充氏**は、核DNA解析から、「**日本人はアジアの
他の地域とは明らかに違った、日本人としての遺伝的特徴を持っている**」
との結論に達した。

つまり⑤⑥⑦から下図の判断が正しいことがわかる。それを、偏向
のNHKは、(知っていながら)嘘とわかっていることを垂れ流そう
としていた、という結論になる。篠田氏は、DNA解析から、ハプロ
タイプ(亜型)分類をおこなっていながら、D1までしか発表してい
ない。もうaもbもない。わざととしか思えない。

下の図をご覧ください。各民族の特徴がよく現れている。人数
は下の方の表の「n」がそれである。



| ハプロタイプ サブグループ | C | D | | N | O | | | 他 | n | 論文作成者・年 |
|------------------|------|------|------|------|-----|------|------|------|-----|--------------|
| | | D1a | D1b | | O1a | O1b | O2 | | | |
| 日本人 | 8.5 | 0.1 | 34.7 | 1.6 | 3.2 | 31.7 | 20.1 | 0.1 | 259 | Hammer 2005 |
| 韓国人 | 12.6 | 0.0 | 1.6 | 4.5 | 1.8 | 32.4 | 44.3 | 2.8 | 506 | Kim 2011 |
| モンゴル | 53.0 | 1.5 | 0.0 | 10.6 | 0.0 | 1.5 | 10.6 | 22.8 | 65 | Xue 2006 |
| 漢族(中国) | 6.0 | 0.6 | 0.0 | 1.1 | 9.6 | 16.3 | 55.4 | 11.0 | 166 | Karafet 2005 |
| チベット | 8.7 | 41.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 39.1 | 8.7 | 46 | Wen 2004 |

図1 日本及び周辺地域のY染色体のハプログループの頻度
 (出典：フリー百科事典『ウィキペディア』から文献根拠の明快なデータを基に作成)

チベット民族、漢民族（いわゆる中国人）、モンゴル人、韓国人および日本人における、Y染色体の遺伝子配列の分布を示したものである。C遺伝子は、モンゴル人に多くみられ、D1aはチベット特有であり、O1bは日本人、韓国人、漢人に同程度みられる。モンゴル人やチベッ

ト人にはほとんどみられない。もっとも顕著な特徴は、黒塗りのD1bである。これこそ日本人特有のものである。

この著者は、司馬遼太郎さんの、日本人の由来は中国（漢族）から朝鮮半島を通過して日本にやってきたという、いわゆる司馬史観を真っ向から否定するものである。司馬史観は、誤った結果を信用することから、朝鮮半島からやって来た高い文明の渡来人が強大であったと考えた。これに圧されて、一部は北部のアイヌ人、南に逃れたのは琉球人で、原日本人は、渡来人であり、また混血という考え方もできるだろうが、図をみれば、まったく異なっていることが一目瞭然である。D1bが、一部韓国人にみられるのだが、これは、古代、半島の南半分は誰も住んでなくて日本（倭）の領土であったことによる。（三国志・韓）新羅に始まり、任那の日本府があり、最終的には白村江の戦いに敗れたため、滅んだ。そして半島から撤退する。

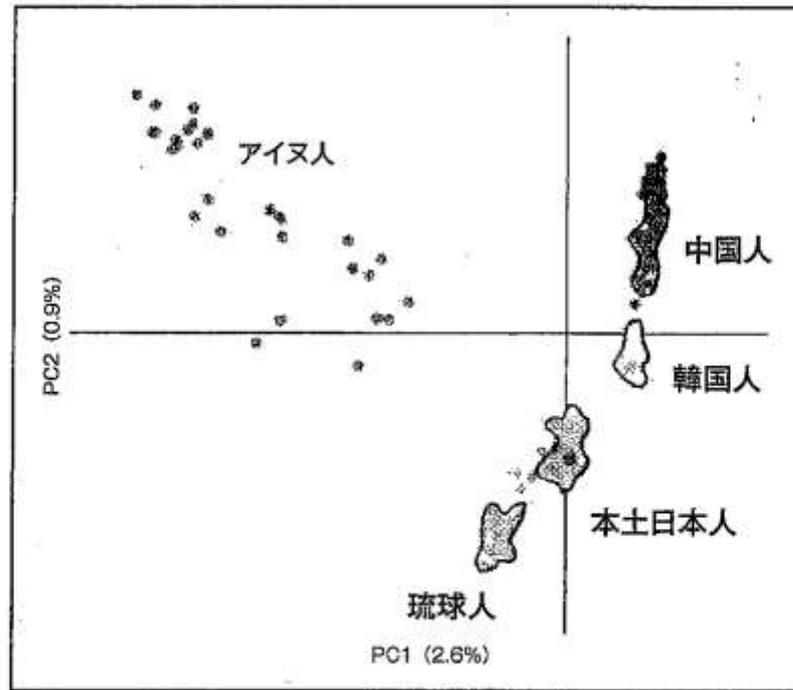


図2a 日本と中国・韓国人のDNA構成比較
 (別冊宝島「DNAでわかった日本人のルーツ」 p.11 図4を一部
 改変)

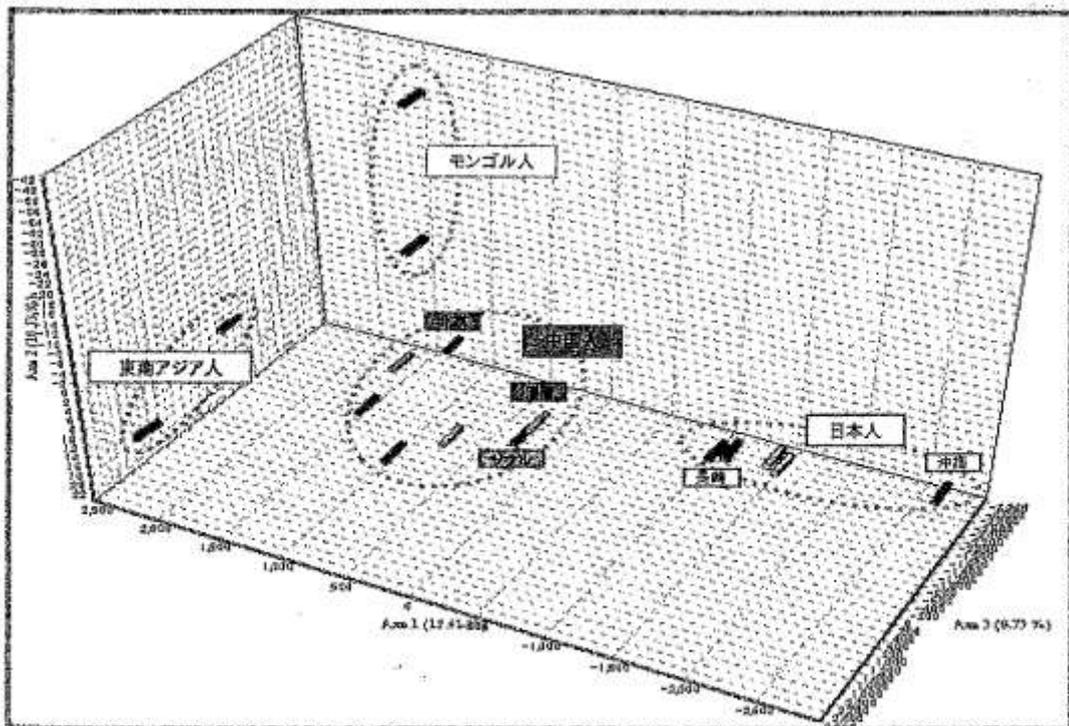


図2b GENETIXによる各集団の3次元プロット (山本敏充ら、未発表)
 (別冊宝島「DNAでわかった日本人のルーツ」 p.20)

図 2 は、上にある a をみれば、本土の日本人と琉球人とが同じ DNA 構成をもっていることを意味している。八重山諸島など、地理的に見れば、台湾や大陸に近いことから、あるいはフィリピンなど太平洋の小さな島からやって来た、と考えるが、核 DNA 解析からみれば日本人である。南九州あたりから南下して住みついたのであると思われる。図 2b の日本人のところ、長崎と沖縄とがかけはなれたようにみえる。だから「南九州」から琉球へ、というのである。これは、琉球大学の佐藤丈寛博士と木村亮介氏ら北里大学との共同研究であるが、350 人の、それぞれ 50 万か所以上の塩基配列を調べたもので、信頼度は高い。現に港川原人の遺跡がみついている。中国人と韓国人はやや異なっている程度である。

驚いたのがアイヌ人である。おそらく、アムール川流域や樺太（つまり現在のロシア）あたりからモンゴル人に追われて南下したらしい。アイヌ人はトリカブトの根の毒を塗った矢を使用し、縄文人に恐れられた。北海道にある遺跡は、漆や土器を使った縄文人の遺跡である。

図 2b では、中央の部分が見にくくなっているが、漢人や韓国人のものである。すなわち、大陸から朝鮮半島を通して渡来した人種が日本人である、というのは、まちがっている。

言語学的にも異なっている。もし大陸から半島を経由して日本人がトライしてきたなら、言葉の一部にでも名残があるだろう。それが全くない、というのは、「渡来」説はない。琉球には、室町時代の表現が残っているという。

天才言語学者の服部四郎さんは、「日本語の系統に興味を持って言語学を始めた」が得るところがなかったという。つまり、中国語や朝鮮語と日本語の間には、なんら似たところがないということである。

服部先生は、15 か国語に精通していたというが、まったく知らない言語を話す集団に 2 週間もいれば話せるようになるだろうと言われていた。

- ① 日本語以外の現存する他の言語、たとえば朝鮮語やタミル語から分岐して生じたというのは、比較言語の常識からしてあり得ない。
- ② 現代の日本語は、遙か縄文時代から現代に至る言語を一貫して継

承する言語であるということ、すなわち弥生時代には現代語の原型がほぼできあがっていた、ということである。

- ③ 縄文時代以降、日本列島に於いて大きな民族的、言語的交替はなかった、ということである。つまり外部から言語の交替を強いるような支配者集団が渡来したことがなかったことは、日本語の言語系統によっても知られる。

ハングル文字にいたっては、日本統治の間、福沢諭吉とその弟子が発掘し、文盲の人々に教えて、共通語にした。なぜなら、この地は差別が激しく、上流階級は、漢語を話し下層階級は共通の言語を持たなかったからである。

アイヌ語の研究では金田一京助である。少数民族を差別してきた日本人も大勢いる。沖縄（琉球）も同じである。これらのことは、現代でもあり、無意味なことで差別しようとする。新型コロナに感染しただけでいじめがある、など、日本人であること以前の人間性を疑わせるものである。これなら、戦争中にインドネシア人に共通語を教えて独立を促した今村均大将のしてきたことまで否定されてしまう。

それはともかく、日本人の大いなる誤解がある。平和ボケの日本人の陥りやすいのは、世界も日本と同じだと考えがちなのである。ところが、世界は、異民族を攻撃し、自分の遺伝子だけを遺そうとする。つまりチンパンジーや畜類と同じである。日本人には、異民族を異様に憎んだり民族浄化のような大量殺戮の記録も記憶もない。・・・・・・高山氏という「世界は腹黒い」というのは、真実を述べている。

古代史を解明しようとするなら、単にDNA解析（生物学的解析）のみならず、言語学や考古学。さらには原子物理学も必要になるし、他国の文献や自国の文献も、というより自国の文献を読まずして、自国の歴史を語るのは、間違っている。つまりGHQは日本の歴史を抹殺するために、記紀を読むことを禁止したのである。その名残が今2020年、戦後75年も経っているのに、今もって記紀を「おとぎ話」のように思っている学者や専門家と呼ばれる連中が、学会を牛耳っているのである。

長浜浩明氏の表現によれば、(科学的)根拠も示さずに日本人のルーツを特定しているのがいくらでもいるというわけである。川喜多教授の言ったように、肩書きだけでは信用はできない。この川喜多教授と江藤淳氏は別格であるが、口を極めて褒め称えているのが、戦後すぐに、検閲の嵐が吹き荒れる中「日本の国家は日本民族と称し得られる一つの民族によって形づくられた」と主張した人がいる。「この日本民族は近いところに親縁のある民族を持たぬ。大陸におけるシナ(支那)民族とは、もとより人種が違う。朝鮮、満洲、蒙古方面の諸民族とも違うので、このことは体質からも、言語からも、また生活の仕方からも、知り得られよう。」と述べたのが歴史学者・津田左右吉である。1946年4月号の雑誌「世界」に掲載したのだが、「検閲」の嵐の中、戦前からの転向者(戦前と戦後でコロッと態度を変えた者)たちを尻目に、ここまで書くというのは、命を賭けているとしか考えられない。じつに尊敬に値する勇者であり、長浜氏も頭をたれるのみである、と言う。

津田左右吉は、現代のDNA鑑定を予測していたかのように、真実を述べている。

なぜなら、今日でさえ、GHQの検閲に縛られていて、真実を述べることができない連中がほとんどだからである。冒頭の篠田などその代表といえよう。「大陸から稲作の技術とともに中国人や韓国人と同じ新モンゴロイドという弥生人が渡来し……」「神武東征は鎌倉時代以降になって創作された話で……」(八幡和郎)なる珍説を文献根拠も示さずに言う人がいるからである。

邪馬台国について

日本書紀をみれば、天皇の年齢が100歳以上の場合が多い。これをもって、「神話」だというのは、実際には、春の種まき、秋の収穫の年に2回歳をとるのである。だから半分の年齢と考えられる。これを証明しているのが、裴松之の三国志の注「其俗、不知正歳四時 但記春耕秋收為年忌」である。古事記に至っては、半分のそのまた半分、1/4の天皇もいるから、すべての天皇に該当するものではないらしい。ひどいもの

では、初代神武天皇から 9 人は「いなかった」というものまででてくる。第十代崇神天皇が事実上の初代である、とか十六代の仁徳天皇からだ、と言う者までいる。

神武天皇の東征も、きちんと大阪平野の成り立ちも理解して書いてあるのが日本書紀である。任那から崇神天皇がやってきて、というが、任那は御間城天皇（崇神天皇）の名からつけた名称である。纏向遺跡も、邪馬台国か！？ではなく、垂仁天皇、景行天皇が都を置いた所と、日本書紀には書いてある。ということは、古代史の専門家と称する連中は、日本書紀を読んでいないことになる。そういう戦後の検閲時代から抜け出していない、公職追放逃れをしてきた連中のなれの果てである。学者なら、事実を曲げて表現することを恥じるべきなのである。

「倭」というのを「日本全体」と理解している人ばかりだが、「倭」は、半島南部の始祖の新羅（シラギ）や北九州に居住する者のことを表している。当然ながら、邪馬台国も、魏志倭人伝を子細に読めば北九州に存在した。幾度か魏に朝貢しているが、この内容が「生口〇人・・・」などと書いてあり、つまりは奴隷を献上したということである。その頃南九州（高千穂は宮崎県である。）に居住していた神武天皇を初めとする天孫族は、これが気に入らないから、常に戦っていた、と考えられる。そして邪馬台国の存続が厳しくなってきたときに魏に助けを求めたものであろう。

もし、邪馬台国が畿内にあれば、奈良に入れ墨をした男性（黥面文身）が大勢いたことになる。そういう事実はないから、これだけで邪馬台国畿内説は、ない。倭人伝に「南行〇日」とあるのを、「間違いじゃ」とばかりに「東行〇日」と勝手に書き換えて判断する。（春成秀爾）・・・瀬戸内海を航海して大阪港に到達したといたいらしい。浪速津（大阪港）は、まだあれへんで。

こういう人は、対馬・壱岐・九州本土までの距離を〇里と表現しているのだから、1 里＝約 70 cm と計算できるのにそれをしない。日本では、距離を表現するのに日数を使っている。日本の川は、大陸と比べて急流が多いから、舟でさかのぼるのは大変で、1 日 2～3 km しか進まなかった日もあるだろうし、水量が少なければ通れないから雨が降るのを待つ。雨の日や風が強ければこの場合も待つ。流量が 2 ノットもあれば、舟を

漕いでも、漕いでも、なかなか進まない。陸行〇日でも、いまのような舗装された道ではないから、悪戦苦闘して歩いたに違いない。あるいは、どこかの豪族に招待されたら、お返しをしなければならない。これで 3 日かかる。十日といっても、11 日かも知れないし、9 日かもしれない。

というようなわけで、どう考えても畿内に邪馬台国を持ってくるのは無理である。1967 年宮崎康平氏が「まぼろしの邪馬台国」を発表した。この人は古代史には関係がない土木関係の会社をやっていたが、倒産し、島原鉄道の社長になった人であるが、網膜炎で失明したため、奥さんが口述する魏志倭人伝を繰り返し聞くことから、菊池あたりに存在することを主張した。このあと、邪馬台国ブームになって、いろいろな人がいろいろな所を邪馬台国に比定してきた。例えば、宇佐神宮とか。長浜氏は福岡県山門郡に比定している。土地の名称も、意味もなく残っているわけではない。魏志倭人伝をすべて信用することから出発している。

古田武彦は、韓国をカンコクと読み、北九州に天孫降臨があったと主張。韓国は空国（カラクニ）で、荒れた不毛の地を意味する。韓国岳というのが高千穂連山にあることを知らない。結局、古代地図を理解することができなかった。

森浩一は大阪平野の発達史を知らない。安本美典は、卑弥呼＝天照大神と断じ、卑弥呼より 40 年後に神武東征があったとするが、これも地理を理解していない。江上波夫の騎馬民族征服説は、単なる思い付きだし、近江昌司・天理大教授は神武天皇から 9 人は実際には存在しなかった。邪馬台国の黥面文身は無視、奈良の先人が 7 世紀に記録しているのも無視、奈良大学の橋本輝彦、白石太一郎、坂井秀弥も同じ。井沢元彦にいたっては、仲哀天皇の妃・神功皇后が不倫をして応神天皇を生んだ、など、世が世であれば切腹もの。ひとつ嘘をつくると、その辻褃合わせで、嘘の連鎖が生じる。さらに、卑弥呼が死んだ年に皆既日食があり、岩戸隠れに結び付けているが、皆既日食が観測されたのは北陸の方で、北九州では、ごく一部の太陽が欠けた程度だった。これで、日食についても無知であることがわかる。箸墓古墳は卑弥呼の墓というのものもある。

上田正昭など、公職追放から逃れ、新興宗教について何かと説明して飯を食っていたが、ニニギノミコトは北九州に降臨したという。それなら古田と同じ誤りである。水野祐は、倭＝日本と思い込んでいる。岡田英弘は、天才秀才で鳴らしたらしいが、日本語は華僑と共同で作った(ブッ。それはないやろ)・・・・これはボクにもわかる。弥生時代に華僑がいたのか？ この部分が最大のオチでもっとも笑った。直木幸次郎は、畿内説で、これも最初の9人を消し去っている・・・・と考える、のはいいが、根拠もなく「考えて」くれても嘘なら意味がない。

和辻哲郎、白鳥庫吉、江上波夫、井上光貞、石母田正、田中卓、上田正昭など戦前からの転向組。家永三郎、丸山眞男、もっといるのだろうが、門外漢のボクでさえ知っている名前がいくつもある。家永三郎は、教科書裁判、丸山眞男は日本の偉人10人に入る、とかいわれていたが、大学紛争で化けの皮がはがれた。よくまあ、ころっと言う事を変えられるなあ。

この連中を批判したのは、公にはおらず、民間の柳田國男氏くらいだという。意地というのがないのか！

ボクは、この長浜浩明氏の著書を読んで感じたことは、この人は、真実を追究することがもっとも大切で、それ以外の深い気持ちはなかったのだろうと思っている。ただ、名指しで批判するということは、お釣りも考えなあかんねんけど、平気で書く、という姿勢に大いに共感するけどなあ。

なぜ、日本は今の国の範囲になっているのか。白村江の闘いで敗れたからである。白村江は、いまハクソンコウと読んでいるが、ボクらは、ハクスキノエと読んでいた・・・・話がそれるが、原敬元首相の名前を50年前からハラタカシとルビがふってあったとき、日本史の教師が、タカシは聞いたきいたことがない、サトシだ、とこだわっていたことがある。ハラケイでよろしやん、といたら、偉く受けた。固有名詞だから、実はサトシが正しい。そのうち百済(クダラ)もヒャクセイ、任那(ミマナ)の日本府もニンナになってしまうのかも知れない。天照大神をテンテルダイジンと読んだ学生(さる有名国立大学)もいるし、なにせ、ろくに読むこともなく、意見だけを押し付けるような連中ばかりだから。

2
0
2
0
.
0
9
.
0
1
.